



令和6年4月17日

研修だより 8号

笠小ルーブリックについて④

小笠原康晃

笠小ルーブリックは3つの良さがあります。

1つ目は「ゴールから考える授業の実施」です。

笠小ルーブリックを継続していくと、1時間の授業のゴールの姿から授業を考えるようになります。

ゴールの姿から逆算して、授業の課題や活動を考え、実践するようになります。

2つ目は「見通しをもった授業展開ができること」です。

子どもたちに見通しをもたせることで、全員が主体的に授業に参加できるようになります。

ゴールの姿を事前に示しているため、子どもたちも「ゴールを達成しよう」という意識をもつことができます。

また、教師も見通しをもった授業展開をすることができ、授業の目指すゴールにより近付くことができます。

3つ目は「長い期間を想定して、授業を展開できるようになること」です。

「資質・能力」を育てるためには、1単元など長い期間を考えて授業を実施していく必要があります。

1時間のゴールの姿を示す「笠小ルーブリック」を実践していくと、長い期間を想定した授業展開ができます。

「笠小ルーブリック」には、このような良さがあります。

「笠小ルーブリック」が示す姿に近付くためには、「しかけ」が必要です。

教師の意図的な働き掛けである「しかけ」をすることで、子どもたちの興味・関心が高まっていきます。

日々の授業の中で「笠小ルーブリック」を実践していくことで、校内研修における授業研究も進めることができます。